

03全事研第50号
令和3年10月20日

各都道府県教育委員会教育長様
全国市区町村教育委員会教育長様
全国公立小・中・義務教育・中等教育・特別支援学校長様
教 育 関 係 者 様

全国公立小中学校事務職員研究会
会 長 阿 部 貴 子
第53回全国公立小中学校事務研究大会
実行委員長 飯 島 由美子

第53回全国公立小中学校事務研究大会 (埼玉大会)の開催について(依頼)

錦秋の候、貴職におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から本会の研究活動に対しまして、御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、第53回全国公立小中学校事務研究大会を開催要項のとおり、Webを活用して開催することになりました。

つきましては、この研究大会を盛大かつ実りのあるものにしたいと存じますので、貴所属職員の参加につきまして、格段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

第 53 回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）

開 催 要 項

- 1 大会テーマ 「子どもの未来を創造する地域協働」
— 彩の国からハッシン（発信・発進）、令和の時代の地域協働 —
- 2 目 的 子どもの生きる力は、学校内における学びだけではなく、家庭や地域での様々な経験を通じてはぐくまれると考える。学校・家庭・地域はビジョンを共有し、カリキュラムの下にそれぞれの役割を果たすことで子どもの学びを保障する必要がある。その実現のためには、互いの多様な価値観を認め、特性を生かし合う持続可能な協働体制を構築することが重要となる。本大会では、戦略的な地域協働の推進により、人づくりや地域づくりをも視野に入れた学校づくりを担う事務職員・共同学校事務室の役割を追究する。
- 3 主 催 全国公立小中学校事務職員研究会
- 4 共 催 関東地区公立小中学校事務職員研究協議会
- 5 主 管 埼玉県公立小中学校事務職員研究協議会
(全国公立小中学校事務職員研究会埼玉支部)
- 6 後 援 文部科学省 全国都道府県教育長協議会 埼玉県 さいたま市 埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会 全国都市教育長協議会 全国町村教育長会
全国市町村教育委員会連合会 指定都市教育委員会協議会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 埼玉县市町村教育委員会連合会 埼玉県都市教育長協議会
埼玉県町村教育長会 埼玉県連合教育研究会 さいたま市教育研究会
埼玉県公立小学校校長会 埼玉県中学校長会 さいたま市立小学校校長会
さいたま市中学校長会 公益社団法人日本PTA全国協議会 埼玉県PTA連合会
さいたま市PTA協議会 公益財団法人日本教育公務員弘済会
公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部 一般財団法人教職員生涯福祉財団
- 7 期 日 令和4年1月11日（火）～2月18日（金）
研究討議ライブ配信 令和4年1月27日（木） 10時30分～16時30分（予定）
1月28日（金） 10時30分～16時30分（予定）

8 内 容 Webによる動画視聴及び資料取得による研究大会開催

(1) 開会式・文部科学省行政説明

内 容	掲載開始予定日	掲載終了予定日
・研究集録	1月11日(火)	2月18日(金)
・開会式	1月11日(火)	2月18日(金)
・文部科学省行政説明	1月11日(火)	2月18日(金)

(2) 全体研究会Ⅰ(本部研究提案)・支部研究提案・全事研コーナー

内 容	掲載開始予定日	掲載終了予定日
・全体研究会Ⅰ (本部研究提案)	1月11日(火)	2月18日(金)
・支部研究提案 山形支部・栃木支部・群馬支部 千葉支部・山梨支部・埼玉支部	1月14日(金)	2月18日(金)
・全事研コーナー	1月14日(金)	2月18日(金)

※提案に対する質問・意見をWebで受け付けます(1月20日(木)締切り)。

(3) 研究討議(分科会)【ライブ配信】

内 容 (順不同)	ライブ配信日	備考
・本部研究討議 ・支部研究討議 埼玉支部・群馬支部	1月27日(木)	2月18日(金) まで録画動画掲載
千葉支部・山梨支部・栃木支部	1月28日(金)	

※ライブ配信は一つの分科会ずつ順番に時間を区切って行います。(各分科会90分程度)

詳細は9～10ページを御覧ください。なお、山形支部は研究討議のライブ配信を行わず、質問・意見への回答を大会専用ページに掲載します。

(4) 全体研究会Ⅱ(シンポジウム)・第54回全国公立小中学校事務研究大会(愛媛大会)PR

・閉会式(引継式)

内 容	掲載開始予定日	掲載終了予定日
・全体研究会Ⅱ(シンポジウム)	2月8日(火)	2月18日(金)
・愛媛大会PR	2月8日(火)	2月18日(金)
・閉会式(引継式)	2月8日(火)	2月18日(金)

9 参 加 者 全国公立小中学校事務職員研究会会員

※学校事務担当職員、教育委員会事務局職員及び教育関係者等の方で参加を希望される場合は、賛助会員になっていただくことで本大会への参加が可能となります。加入方法等については9ページを御覧ください。

10 参 加 費 な し

11 研究テーマ

本部研究分科会 (全事研本部)	テーマ 「子どもの未来を創造する地域協働」 ー地域の想いと学校づくりを結ぶ事務職員・共同学校事務室ー
第1分科会 (山形支部)	テーマ 「未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務」 ー持続可能な、地域と学校をつなぐ人になるー
第2分科会 (栃木支部)	テーマ 「子どもの学びの充実を図る学校事務」 ー「実践」から見た学校経営参画ー
第3分科会 (群馬支部)	テーマ 「学校と地域がともにつくる子どもたちの未来」 ーやってみよう！地域協働のファーストステップー
第4分科会 (千葉支部)	テーマ 「みんなの願いをカタチに」 ー総合的判断力をもった事務職員の戦略的な情報発信ー
第5分科会 (山梨支部)	テーマ 「やってみるじゃん！自ら発信する学校経営参画」 ー信頼される学校事務 スクールソムリエをめざしてー
第6分科会 (埼玉支部)	テーマ 「未来を創る子どもたちのために 事務職員が果たす役割」 ー「総務」「財務」の面から学校と地域をつなぐー

第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）

1 大会テーマとそのねらい

戦略領域「地域協働」

大会テーマ「子どもの未来を創造する地域協働」

第9次研究中期計画では、学校事務のミッションを達成するための課題として、五つの戦略領域を設定しています。それにより、持続可能な社会の創り手となる人材をはぐくむ新たな学校像を創造するための学校マネジメントに必要となる組織力やリーダーシップ、多様な主体との協働等について追究します。3年次に当たる埼玉大会では、「地域協働」を軸に、より良い学校づくりの具現化に向けた理論研究・実践研究等を通して、ミッションである「子どもの豊かな育ちを支援する」学校事務を追究し、教育の質やその効果を高めることを目指します。

我が国は今なお、少子化による人口減少、急速な高齢化の中にあります。2065年には、総人口8,808万人となり、さらに、約2.6人に1人が65歳以上となると見込まれています（令和元年版高齢社会白書）。また、第4次産業革命やグローバル化は、我々の生活に利便性と新たな価値をもたらしたものの、それらに起因する情報格差の拡大、人口分布の二極化、地域雇用の喪失等の課題も深刻化しています。

一方で、日本の高い基礎学力や子どもの規律ある生活習慣等をはぐくむ「日本型教育」は世界からも注目され、官民協働で海外への展開事業が行われています（EDU-Portニッポン）。これは、学校・家庭・地域の協働を通して子どもを育成することが、日本の教育の強みとして関心をもたれている表れでもあります。

地域協働については、これまでも様々な施策が展開されてきました。「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（中教審答申・2015）」では、学校を核とした地域づくりとともに、社会総がかりで子どもの成長を支えることによって、地方創生を図ることが示され、その実現のための方策として、地域学校協働本部事業が提言されました。そして、2017年には、学校運営協議会の設置が努力義務化され、地域とともにある学校の実現に向けた施策が進められています。しかし、こうした施策では、課題も明らかになっています。例えば、地域学校協働本部事業を推進していく上での課題としては、「教職員の多忙化」「コーディネーターの育成」「事業に対する教職員の理解不足」等が挙げられています（国立教育政策研究所・2017）。これらの課題を解決するには、学校・家庭・地域が対等の関係でその特性を生かした協働を推進し、子どもの育ちと地域づくりの好循環を生み出すことが必要であり、その仕組みづくりを担うことが事務職員に求められています。

以下の課題を整理し、地域協働を事務職員が担う意味を再認識するとともに、事務職員の役割、キャリア形成・能力開発、共同学校事務室の在り方や機能について考えます。

- （1）新たな学校を創造する地域協働の在り方
- （2）地域協働の要としての事務職員・共同学校事務室の役割

これまで学校と地域の協働に事務職員としてどのように関わってきたでしょうか。そして、学校づくりと地域づくりをともに推し進める新たな地域協働に向けて事務職員はどのようにその専門性を発揮し、役割を果たしていくことができるのでしょうか。

大会開催地である埼玉県のアピール「彩の国」とは、四季折々の色彩豊かな自然に恵まれ、産業、文化、学術など様々な分野で発展する多彩な国であることを表現しています。埼玉大会はオンラインでの開催ではありますが、「彩の国」の大会として、多彩な子どもの未来のために必要な多彩な主体との協働の在り方や、そこに果たす事務職員・共同学校事務室の役割を共に考え、「子どもの豊かな育ちを支援する」学校事務の実現へとつなげていきましょう。

2 全体研究会Ⅰ 本部研究提案（令和4年1月11日～録画配信）

全体研究会Ⅰでは、全事研本部の研究の方向性を示す場として、本部研究の提案を行います。このことにより、テーマと課題の共有が可能となり、分科会討議が更に深まるものと考えます。

テーマ「子どもの未来を創造する地域協働」

地域協働の推進における事務職員、共同学校事務室の在り方について、二つの視点から迫ります。一つ目は、協働体制の確立と持続可能性です。子どもの学びを豊かなものとするためには、家庭や地域の各主体がその特性や専門性を十分に発揮し、それぞれの役割を果たす地域協働が必要です。子どもの学びにかかわる主体の想いや自己実現、CSVの過程を教育活動に結び付けることで学校づくりと地域づくりの好循環が生まれ、地域協働は持続可能な仕組みになると考えます。今回の研究では、事務職員、共同学校事務室が多様な経営資源のマネジメントを通して関係をつなぎ、学びを豊かにする姿を描きます。二つ目は、事務職員による政策形成です。地域の抱える課題が複雑化・多様化してきているなかで、学校を核として地域全体の組織の力を高め対応していくことが必要とされています。組織の力を高めるために事務職員・共同学校事務室が中心となり、組織を構成する各主体の責任と役割の自覚を促すような政策を形成することで戦略的な協働を生み出していく姿を描きます。

また、子どもの未来を創造する地域協働を推進するための組織としての「カリキュラム戦略室」の役割を提案します。この組織は学校・家庭・地域が義務教育9年間のカリキュラムを系統的に設計するとともに、学びにかかわる主体の想いをも教育活動に取り入れる機能を担うものです。

子どもが予測困難な未来を幸せに生きるための力をはぐくむために、学びの変革が求められています。多様な主体とのかかわりにより豊かな学びを創造するためには、協働の在り方を確立する必要があります。

本部研究として、地域とともにある学校における新たな地域協働の姿とそこに果たす事務職員・共同学校事務室の役割、力量形成の在り方を提案します。

3 分科会テーマと概要 支部研究提案（令和4年1月14日～録画配信）

研究討議（令和4年1月27、28日ライブ配信、以降録画配信）

分科会として、第9次研究中期計画の3年次として大会テーマ「子どもの未来を創造する地域協働」の下、それぞれに積み重ねられた特色ある研究発表と討議が展開されます。

□本部研究分科会

本部研究テーマ「子どもの未来を創造する地域協働—地域の想いと学校づくりを結ぶ事務職員・共同学校事務室—」について、全体研究会Ⅰでの提案に基づいた研究討議を行い、研究の更なる深まりを目指します。

討議の柱（1）新たな学びを実現する地域協働の在り方

（2）地域協働を推進する事務職員・共同学校事務室の役割

□第1～6分科会

本大会では、山形支部と栃木支部、群馬支部、千葉支部、山梨支部、埼玉支部の協力を得て分科会を行います。各分科会では、それぞれの支部で積み上げられた研究に基づく提案と、それを基にした研究討議が行われます。オンラインという新しい手段を生かし、工夫を凝らした分科会運営によって、参加者は今後の実践につながるヒントを見出せるのではないかと期待しています。（提案概要は6～8ページに掲載）

4 全体研究会Ⅱ（シンポジウム）（令和4年2月8日～録画配信）

全体研究会Ⅱでは、大会のまとめとしてシンポジウムの録画配信を行います。

テーマ「子どもの未来を創造する地域協働」

シンポジストそれぞれの立場から御発言いただき、子どもの未来を創造するために必要なこれからの学校と地域の在り方について問うとともに、戦略的な協働によって学校づくりと地域づくりをも担っていく事務職員の役割について意見を交換し、未来を展望します。地域協働における学校事務の在り方を再確認し、明日への一歩を踏み出す機会となれば幸いです。

分科会提案概要

第1分科会 山形支部

未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務
ー持続可能な、地域と学校をつなぐ人になるー

□【提案内容】

平成28年度の全国公立小中学校学校事務研究大会山形大会では、協議会活動や研究の方向性を指し示す研究ビジョン「やまがた花笠プラン」を全国へ発信し、本県の現状とあるべき姿を語り合うことができました。その後、時代の変化に即して見直しを図りながら、「やまがた花笠プラン」は、会員一人一人が目指す事務職員の姿として、また自信と確信を持って進むための指針として大きな役割を果たしてきました。

さて、近年子どもを取り巻く環境は厳しさを増しています。このようななか、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力をつけることができるよう、学校・家庭・地域がこれまで以上に一体的に取組を推進していく必要があります。そこで、私たち事務職員はどのような役割を果たしていけば良いのでしょうか。

本分科会では、「地域とともにある学校づくり」に関する山形の現状と課題、その解決策として「やまがた花笠プラン」を意識した実践（エピソード）により提案します。参加される皆様からのご意見やエピソードを共有し学ぶ、良い機会となれば幸いです。そして、「私（私たち）はこれをやってみたい」、「やってみっぺ！（やってみよう!）」という取組を見つけていきたいと考えます。

□【討議の柱】

- (1) 「地域とともにある学校づくりのため」の事務職員の役割とは
- (2) 持続可能な取組としていくには

第2分科会 栃木支部

子どもの学びの充実を図る学校事務
ー「実践」から見た学校経営参画ー

□【提案内容】

今、学校では学習指導要領の改訂に伴うカリキュラムマネジメントの提言や、学校の働き方改革、業務改善など、教育の質を保障し、子どもたちの生きる力をはぐくむための条件整備が次々に打ち出されています。

こうした中、私たち栃木県公立小中学校学校事務職員研究協議会（栃事研）では、社会の変化に的確に対応し、子どもたちの学びづくりに参画していくため、研究主題「子どもの学びの充実を図る学校事務」を設定し、中期研究計画、第2期とちぎ学校事務ビジョンを柱に活動を進めています。

栃事研では、全ての事務職員が学校経営参画を果たすため、校長の描く学校経営ビジョンの「実現」と「策定」へ参画していくことに組織をあげて取り組んできました。しかし、「実現」に向けた取組に比べ、「策定」への参画については課題が多く残されていました。

本分科会では、事務職員の学校での「実践」を様々な角度から分析・検証を行い、学校経営ビジョンの「実現」を通した「策定」への参画について、その役割・仕事を明らかにしていきたいと思います。そして、とちぎの学校経営参画を達成したその先にあるものは何か。皆様と共に考えていきたいと思います。

□【討議の柱】

- (1) とちぎの戦略、学校経営参画の姿
- (2) 学校経営参画、その先にあるものは

第3分科会 群馬支部

学校と地域がともにつくる子どもたちの未来
ーやってみよう！地域協働のファーストステップー

□【提案内容】

学校は地域と一体となって子どもたちをはぐくむ「地域とともにある学校」へ転換していくことを目指して取組を進めていく必要があると提言されています。

しかし、群馬県は「地域とともにある学校」への転換に有効とされる「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働本部」の整備率が全国平均より低く、また、学校事務職員の地域との連携・協働における職務において、標準化された取組等が明示されていないのが現状です。

群馬県公立小中学校学校事務研究会では、全会員を対象とし、地域との連携・協働に対する意識と職務経験を調査しました。その結果、多くの学校事務職員が地域とのかかわりを意識しながらも、その具体的な方法が分からず、第一歩を踏み出す困難さを感じていることが分かりました。

本分科会では、その第一歩を踏み出すために作成した「群馬県の学校事務職員における地域との連携・協働指標」を解説するとともに、地域との連携・協働に関わる学校事務職員の業務を定着させるために行っている取組を提案します。

□【討議の柱】

- (1) 地域協働への第一歩を目指して
- (2) 業務の定着化に向けて
- (3) 学校と地域をつなぐ学校事務職員の可能性

第4分科会 千葉支部

みんなの願いをカタチに
ー総合的判断力をもった事務職員の戦略的な情報発信ー

□【提案内容】

近年、社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、中でも新型コロナウイルス感染症拡大防止や子どもの学びの保障について、様々な情報を得ながら、学校はチームとなって連携し、この困難な状況を乗り越えています。

千葉県学校事務研究協議会では、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」をミッションとし、令和2年度より、研究計画「ちば夢プラン（vol. 1）～地域とともにある学校づくりと学校事務～」の研究を推進しています。地域で子どもをはぐくみ、自己肯定感や自己有用感を高め、ちばの子どもに夢を持って育ってほしいという想いを込めた研究計画です。

本研究では、「事務職員が学校内外の現状や資源を見極め、情報マネジメントを行い、戦略的に情報を発信することで地域協働につながり、子どもの豊かな学びや育ちを支援することができる」という仮説のもと、子ども自身の夢や、学校・家庭・地域の願いを確実に実現していくための学校づくりにおける情報マネジメントの在り方を描きます。また、地域全体を俯瞰し、情報を戦略的に発信する事務職員の姿や共同実施・学校間連携の役割、人材育成とキャリア形成について提案します。

□【討議の柱】

- (1) 地域とともにある学校づくりにおける情報マネジメントの在り方
- (2) 地域協働における事務職員、共同実施・学校間連携の役割

第5分科会 山梨支部

やってみるじゃん！自ら発信する学校経営参画
－信頼される学校事務 スクールソムリエをめざして－

□【提案内容】

法改正により、学校事務職員は採用と同時に「事務をつかさどる」ことが求められるようになりました。県教委より通知された標準職務表では学校事務職員が積極的に参画する職務として「学校企画運営に関わる会議への参画」が示されました。

山事研では第2期グランドデザインの策定にあたり「めざす事務職員像」について実践研修を行い、会員向けに意識調査をして「めざす事務職員像」にとって必要な能力を導き出しました。「めざす事務職員像」実現のためには、事務職員自身の意識改革が必要です。その手立てとしてのキャリアアップ・ファイトシートの改訂を行い、活用を推進してきました。グランドデザイン策定後には周知と理解を図るために管理職を対象にアンケートを行い、事務職員にとって必要な能力や共同学校事務室に期待することなど意識調査と合わせて分析しました。また、経営参画アンケート結果からは企画会議へ参加することの意義を得ることができました。法的根拠や行政的視点を持って、子どもたちのために様々な機関と連携し、チーム学校として社会に開かれた教育課程の実現に向けて「自ら発信する学校経営参画」について皆様とともに考え、深めていきたいと思います。

□【討議の柱】

- (1) 事務職員が自ら発信する学校経営参画とは？
- (2) 学校経営参画が進むことの意義

第6分科会 埼玉支部

未来を創る子どもたちのために 事務職員が果たす役割
－「総務」「財務」の面から学校と地域をつなぐ－

□【提案内容】

将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちが未来を切り拓く力を身に付けるためには、学校だけでなく地域とともに社会総掛かりで子どもをはぐくむ必要があります。また、地域のつながりの希薄化等の課題解決のため、学校を核とした地域づくりが求められています。

埼玉県公立小中学校事務職員研究協議会は「埼玉の学校事務グランドデザイン～彩の国コバトンプラン～」において、目指す事務職員像を「学校の内外をつなぎ広げ、学校力を高める事務職員」と定めています。学校と地域が同じ目標に向かい、より円滑・効果的に協働できるよう事務職員が役割を果たすことは、目指す事務職員の姿に合致すると考えます。しかし、令和2年度に埼事研会員を対象に行った調査結果によると、本県事務職員の地域へのかかわりはまだ十分ではありません。

本分科会では、総務・財務等に通じる事務職員が、地域とともにある学校づくりにおいてどのような役割を担うことで、学校と地域をつなぐことができるか提案します。また、現状を踏まえて研修制度の在り方を考えることによって、実際に役割を果たせるようになるまでの道筋を参会者の皆様とともに探っていきたいと思います。

□【討議の柱】

- (1) 地域とともにある学校づくりにおける事務職員の役割
- (2) 必要な力量と研修制度

全事研からのお知らせとお願い

○全事研加入の御案内

全事研は、学校事務の研究・研修の場です。未加入の方（団体）は、手続きをお願いします。

◎全事研加入に関する問い合わせ先

全国公立小中学校事務職員研究会 事務局長 しげた まさのぶ 重田 雅伸

所属校 伊勢崎市立宮郷第二小学校（群馬）

所在地 〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町3069-1

TEL 0270-40-5110 FAX 0270-40-5111

実行委員会からのお知らせとお願い

■大会参加方法について

参加方法は変更になることがあります。
詳細は全事研Web内に掲載します。

◇ 動画（録画）や資料の閲覧 **事前申込み不要**

全事研Webへ会員ID・PWでログインし、会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）内から視聴・閲覧することができます。

研究提案に関する質問・意見は、このページから分科会ごとの質問フォームを通じてお寄せいただけます。

◇ ライブ配信による研究討議 **事前申込みが必要**

令和4年1月27日（木）・28日（金）に、Web会議システム「Zoom」を使用し、定員制で開催します。研究討議への参加については事前申込みが必要となります。

ライブ配信による研究討議参加申込み期間

令和3年11月22日（月）～12月17日（金）（予定）

ライブ配信による研究討議へ参加御希望の方は、全事研Web会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）の参加申込みフォームより手続きをしていただきます。

希望される分科会の選択方法及び分科会参加決定連絡等の詳細については、後日全事研Web会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）内に掲載します。

※ 各分科会の定員（300名程度）を超過する場合は、抽選を予定しています。

※ ライブ配信による研究討議へ円滑に参加していただくために、事前に「Zoom」への接続確認ができるようにする予定です。詳細は全事研Web会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）内に掲載いたします。

◎ライブ配信による研究討議 開催日・時間（予定） ※変更となることがあります。

	開催日	開催時間
本部研究分科会	1月27日（木）	15：00～16：30
第1分科会（山形支部）	1月14日（金）から配信予定の研究提案後、質問・意見を 受け付け、1月27日（木）以降回答を大会専用ページに掲載	
第2分科会（栃木支部）	1月28日（金）	15：00～16：30
第3分科会（群馬支部）	1月27日（木）	12：45～14：15
第4分科会（千葉支部）	1月28日（金）	10：30～12：00
第5分科会（山梨支部）	1月28日（金）	12：45～14：15
第6分科会（埼玉支部）	1月27日（木）	10：30～12：00
※ ライブ研究討議の録画配信を編集等終了後から2月18日（金）まで行います。 ※ 討議円滑化のため、討議中にチャット機能があるアプリケーションや、Z o o m のブレイクアウトルーム機能を使用することがあります。 ※ ライブ配信時は指示がない限り音声ミュートでの参加をお願いします。また、顔や 背景等映像がカメラをオフにしない限り映りますのであらかじめご了承ください。		

- ※ ライブ配信による研究討議については、発信側受信側双方の通信環境や設備・機械に影響され、想定外の不具合が生じることがあります。ライブ研究討議当日は、「Z o o m」に関する使用方法・接続方法等、参加者個々の技術的な問題についての御対応はできません。
- ※ ライブ配信による研究討議に参加できなかった場合等への対応のために、各分科会の研究討議を録画し全事研W e b 会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）内に掲載します。大変申し訳ありませんが、ライブ配信に不具合が生じた場合は研究討議の録画を御視聴ください。

■ 研究集録について

研究集録は、冊子による配布はありません。

全事研W e b 会員ルーム「第53回全国研究大会埼玉大会」（専用ページ）内に掲載いたしますので、各自ダウンロードでの御対応をお願いいたします。

■ 録音等について

全事研W e b 内に掲載された埼玉大会関係各種ファイル及び動画については、録音、録画、写真保存及び無断転載等を行わないようお願いいたします。

■ 問い合わせ

◇ 大会全般に関すること

第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）実行委員会 事務局長 浅野 直樹
川越市立川越小学校 〒350-0053 川越市郭町1-1-1 TEL 049-222-0309 FAX 049-229-1214

◇ 参加申込みに関すること

第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）実行委員会 運営部長 大澤 啓
入間市立野田中学校 〒358-0054 入間市野田1741 TEL 04-2932-7301 FAX 04-2932-8322

- ※ 大会研究討議ライブ配信当日と準備日（1月26日・1月27日・1月28日）は問い合わせ担当が学校に不在のため、参加者の皆様へのお問い合わせ対応ができません。あらかじめ御了承ください。

